

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成16年12月9日(2004.12.9)

【公表番号】特表2000-511185(P2000-511185A)

【公表日】平成12年8月29日(2000.8.29)

【出願番号】特願平9-542737

【国際特許分類第7版】

A 6 1 K 7/021

A 6 1 K 7/027

【F I】

A 6 1 K 7/021

A 6 1 K 7/027

【手続補正書】

【提出日】平成16年4月12日(2004.4.12)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

## 手 続 補 正 書

平成16年4月12日

特許庁長官 今 井 康 夫 殿

## 1. 事件の表示

平成9年特許願第542737号

## 2. 補正をする者

名称 イーストマン ケミカル カンパニー



## 3. 代理人

住所 〒105-8423 東京都港区虎ノ門三丁目5番1号 虎ノ門37森ビル

青和特許法律事務所 電話 03-5470-1900

氏名 弁理士(7751)石田 敬



## 4. 補正対象書類名

明細書及び請求の範囲

## 5. 補正対象項目名

明細書及び請求の範囲

方 式 査



## 6. 補正の内容

1) (i) 明細書第1頁第13行「皮膚を着色する方法」を『皮膚用化粧品組成物』と補正する。

(ii) 同第3頁第22行「及び方法」を削除する。

(iii) 同第4頁第1行「及び方法」を削除する。

(iv) 同第4頁第4行「及び方法」を削除する。

(v) 同第4頁第7～8行「皮膚に適用する……着色方法」を『皮膚用化粧品組成物に配合すること』と補正する。

2) 請求の範囲を別紙のとおり補正する。

## 7. 添付書類の目録

請求の範囲

1通

## 請求の範囲

1. 有効量の少なくとも一種の水分散性スルホポリエステル及びこのスルホポリエステル主鎖中に又は主鎖上に反応させた着色剤を含んでなる唇又は皮膚用化粧品組成物。

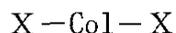
2. ヒドロキシ当量に対する酸当量の割合が実質的に等モル比であるスルホポリエステルが、以下の反応体及びそれらのエステル形成性誘導体:

(a) 芳香族ジカルボン酸、飽和脂肪族ジカルボン酸、脂環族ジカルボン酸及びこれらの組合せからなる群から選ばれたジカルボン酸、

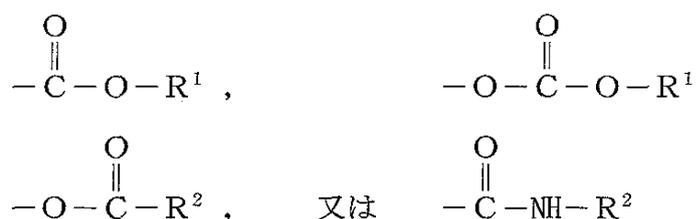
(b) ジオール、

(c) ヒドロキシ、カルボキシ及びアミノからなる群から選ばれた官能基を含む2官能スルホモノマーであって、芳香族環又は脂環族環に結合した少なくとも一つのスルホネート基を含む、全酸及びヒドロキシ当量の合計 200モル%に基づいて、4~25モル%の2官能スルホモノマー、並びに

(d) 全酸及びヒドロキシ当量の合計 200モル%に基づいて、1~40モル%の式:



[式中、CO1は顔料残基であり、Xは、独立に、ヒドロキシ、カルボキシ、アミノ、アルキルアミノ、エステルラジカル及びアミドラジカル(該両ラジカルは式:



(式中、R<sup>1</sup> はC<sub>1</sub> ~ C<sub>5</sub> アルキル、C<sub>3</sub> ~ C<sub>8</sub> シクロアルキル及びフェニルからなる群から選ばれ、そしてR<sup>2</sup> は水素又はR<sup>1</sup> である))からなる群から独立に選ばれた縮合性のカルボニルオキシ-反応性又はカルボニルアミド-反応性置換基である]

着色剤:

の反応残留物を含んでなる請求の範囲第1項に記載の化粧品組成物。

3. Xがカルボメトキシ及びアセトキシからなる群から選ばれる請求の範囲第2項に記載の化粧料組成物。

4. 着色剤がメチン、ビスーチメン、アントラピリドン及びフタロシアニンからなる群から選ばれる請求の範囲第2項に記載の化粧料組成物。

5. スルホポリエステルが3000～15000の数平均分子量を有する請求の範囲第2項に記載の化粧料組成物。

6. ジカルボン酸がテレフタル酸、フタル酸、イソフタル酸、ナフタレン-2,6-ジカルボン酸、シクロヘキサンジカルボン酸、シクロヘキサン酢酸及びこれらの混合物からなる群から選ばれる請求の範囲第2項に記載の化粧料組成物。

7. ジオールがジエチレングリコール及び1,4-シクロヘキサンジメタノールである請求の範囲第2項に記載の化粧料組成物。

8. 2官能スルホモノマーが5-ソジオスルホイソフタル酸である請求の範囲第2項に記載の化粧料組成物。

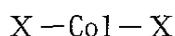
9. 油性ベヒクルが種々のワックスで所望の稠度に剛化された脂肪又は油からなる、口紅、リップグロス又は化粧料において、ヒドロキシ当量に対する酸当量の割合が実質的に等モル比であり、以下の反応体及びそれらのエステル形成性誘導体：

(a) 芳香族ジカルボン酸、飽和脂肪族ジカルボン酸、脂環族ジカルボン酸及びこれらの組合せからなる群から選ばれたジカルボン酸、

(b) ジオール、

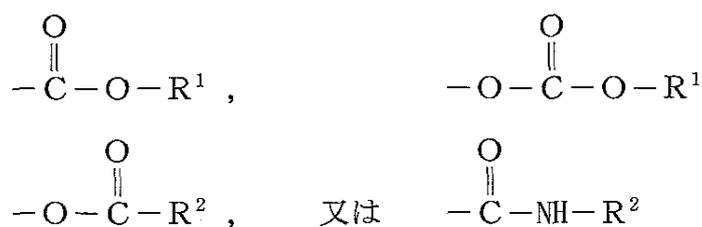
(c) ヒドロキシ、カルボキシ及びアミノからなる群から選ばれた官能基を含む2官能スルホモノマーであって、芳香族環又は脂環族環に結合した少なくとも一つのスルホネート基を含む、全酸及びヒドロキシ当量の合計 200モル%に基づいて、4～25モル%の2官能スルホモノマー、

(d) 全酸及びヒドロキシ当量の合計 200モル%に基づいて、1～40モル%の式：



〔式中、Co1は顔料残基であり、Xは、独立に、ヒドロキシ、カルボキシ、アミノ、アルキルアミノ、エステルラジカル及びアミドラジカル（該両ラジカルは式

:



(式中、 $\text{R}^1$  は $\text{C}_1 \sim \text{C}_5$  アルキル、 $\text{C}_3 \sim \text{C}_8$  シクロアルキル及びフェニルからなる群から選ばれ、そして $\text{R}^2$  は水素又は $\text{R}^1$  である))からなる群から独立に選ばれた縮合性のカルボニルオキシ-反応性又はカルボニルアミド-反応性置換基である]

の着色剤:

の反応残留物を含んでなる水分散性スルホポリエステルを水性エマルジョンの形で添加してなることを改良点とする口紅、リップグロス又は化粧品組成物。

10. 水性リップグロス又は化粧料を製造する方法において、

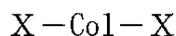
(I) ヒドロキシ当量に対する酸当量の割合が実質的に等モル比であり、以下の反応体及びそれらのエステル形成性誘導体:

(a) 芳香族ジカルボン酸、飽和脂肪族ジカルボン酸、脂環族ジカルボン酸及びこれらの組合せからなる群から選ばれたジカルボン酸、

(b) ジオール、

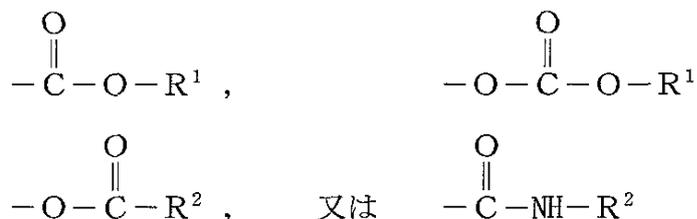
(c) ヒドロキシ、カルボキシ及びアミノからなる群から選ばれた官能基を含む2官能スルホモノマーであって、芳香族環又は脂環族環に結合した少なくとも一つのスルホネート基を含む、全酸及びヒドロキシ当量の合計 200モル%に基づいて、4~25モル%の2官能スルホモノマー、並びに

(d) 全酸及びヒドロキシ当量の合計 200モル%に基づいて、1~40モル%の式:



[式中、Colは顔料残基であり、Xは、独立に、ヒドロキシ、カルボキシ、アミノ、アルキルアミノ、エステルラジカル及びアミドラジカル(該両ラジカルは式

:



(式中、 $\text{R}^1$  は $\text{C}_1 \sim \text{C}_5$  アルキル、 $\text{C}_3 \sim \text{C}_8$  シクロアルキル及びフェニルからなる群から選ばれ、そして $\text{R}^2$  は水素又は $\text{R}^1$  である))からなる群から独立に選ばれた縮合性のカルボニルオキシ-反応性又はカルボニルアミド-反応性置換基である]

の着色剤：

の反応残留物を含んでなる着色スルホポリエステルの水性分散液を調製し、そして

(II) 工程 (I) で調製したスルホポリエステルの水性分散液を、エマルジョンを得るための脂肪、油及び種々のワックスからなる油性ベヒクルを含む溶融配合物と混合し、そして

(III) 工程 (II) で調製したエマルジョンを冷却してリップグロス又は化粧料が得られるまで攪拌する

各工程を含んでなる唇又は皮膚用化粧料組成物の製造方法。